



ハツコキソウ

110 編は **ダビデの詩。賛歌** と端書きにあります。冒頭の言葉 **わが主に賜った主の御言葉。(1)** は短くて、**主** という言葉が 2 度使われていますので、紛らわしいのですが、**主** は夫々異なります。110 編は「ダビデの子についての問答」(**マタイ 22:41 マルコ 12:35 ルカ 20:41**) の場面で、主イエスによって引用された詩編です。旧約聖書に於いては、ダビデの子とは直接にはソロモン、また、ダビデの子孫を指しますが、新約聖書の時代になると、救いを求める人々がダビデのような力ある王の再来を願い、救い主と期待する人に「ダビデの子」と呼びかけることが多かったのです。主イエスもそのように呼ばれました。この時、主イエスは詩編110編をダビデが詠んだ賛歌として引用し、ダビデが主と呼んでいるように、メシアはダビデの主であり、その主を神が、神の右に立つもの、神に等しいものとされたと言説されました。神の子であれば、人によらないものであり、主イエスの理解は当然のことです。

けれども、ダビデがメシアの幻を見たとの記述はサムエル記、列王記にありません。**わが主** をそのままメシアとするには無理があります。詩人はこの詩をダビデの名のもとに捧げましたが、詩人の主こそ **わが主**、ダビデであり、ダビデを称える思いで、この詩を詠んだのではないのでしょうか。そして、ダビデが神から頂いた **御言葉** は「**わたしの右の座に就くがよい。わたしはあなたの敵をあをたの足台としよう。**」です。ダビデは神に愛され、神と共にあり、敵に勝利するといひます。

2連では **主はあなたの力ある杖をシオンから伸ばされる。敵のただ中で支配せよ。(2)** と、王権は **シオン**、即ち、エルサレムから発動されると歌います。そして、王は敵と戦い、支配する将軍として、力を振ります。一方、**あなたの民は進んであなたを迎える** と、民は忠誠を示すのです。王と民の応答のように響き合います。

3連は **メルキゼデク** の名前を持ち出して **あなたはとこしえの祭司／メルキゼデク(わたしの正しい王)。(4)** と褒め称えます。**メルキゼデク** とは **いと高き神の祭司であったサレムの王メルキゼデクも、パンとぶどう酒を持って来た。(創14:18)** とあり、アブラハムに一度だけ姿を現しましたが、二度と現れることはなく、不思議で、不明な存在です。王は永遠の祭司、完全な王と称えられます。

預言者たちは民の罪深さのゆえに必ず裁きがあることを確信し、救いを求めて祈り、幻を見ました。イザヤは **おとめが身ごもって、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ。(イザ 7:14)** と、神が新しい救いのしるしを与られると預言しました。ダニエルは **夜の幻をなお見ていると、／見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り／「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み、権威、威光、王権を受けた。(ダニ 7:13)** と、幻を見ました。救い主を待望する思いは強かったのです。けれども、民が待望した救い主、**主** と、主イエスが示された神の子、**主** の姿は全く違います。「ダビデの子についての問答」の中で、主イエスが示されたメシア像は、ダビデの覇権ではなく、預言者たちに幻で示された父なる神の独り子としてのメシアの姿でしょう。

『讚美歌 21』には関連讚美歌はありません。ジュネーブ詩編歌はビオラ・ダ・ガンバとオルガンによる重奏です。 https://www.youtube.com/watch?v=5cRf_2ACIf4&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=110